

# 重層的支援体制整備事業に係る相談記録プラットフォームのプロトタイプの開発

## 本事業の概要

背景

包括的な支援に向けた本県の先進的な取組み 平成16年度：中核地域生活支援センター設置

課題

人材確保の一層困難化

案件複雑化による事務量増大

趣旨

相談員の作業負担軽減、福祉の相談支援業務の質の向上

※紙ベースで行われている現在の相談支援現場の様子

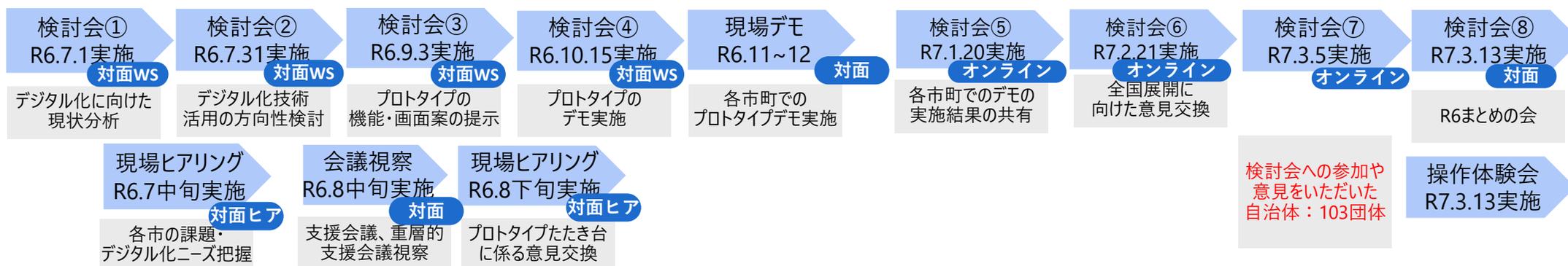


デジ田 TYPES の取組

重層的支援体制整備事業を対象として、相談から支援までの業務フローにおける **相談記録プラットフォームのプロトタイプ**の作成（福祉の相談支援現場のデジタル化モデル）

将来的に他自治体に展開

## デジタル化検討会概要 現場の声を反映させたプロトタイプとするため、TYPES事業の参加各市を構成員としたデジタル化検討会を開催



# 相談記録プラットフォームのコンセプトと機能

検討会2回目で議論した「福祉の相談支援業務のありたい姿」から、デジタル化を通じて実現すべき4つのコンセプトを導出しました。これらのコンセプトに基づき、相談記録プラットフォームの機能案・画面案を検討しました。



**品質の良い記録を  
必要な人に安全に共有し、  
関係機関で円滑に認識を揃えられる**

**相談者と支援者双方の状態を  
把握し適切な対応を迅速に行える**

**データ活用による知識の共有と  
調査や書類作成の負担軽減**

**人材育成と支援スキルの底上げ**

## 機能案

- **世帯単位の記録**
- **共同編集・閲覧可能な共有画面**
- **記録へのコメント機能**
- 過去事例レコメンド<sup>※</sup>（記録のガイド）
- **ジェノグラム・エコマップ作成・読み込み**
- **アカウントごとのアクセス権限の設定**
- 情報の受け渡し時のコメント
- 他システム連携
- データのインポート・エクスポート機能

- **ケース進捗管理**
- **アラート機能**
- 支援員のスケジュール・工数管理
- **スケジュール調整**
- 支援者間のスケジュール共有
- **グループチャット**

- 過去事例共有・検索機能  
（類似事例を検索）
- 社会資源共有・検索機能 } 生きた情報を検索
- 制度照会機能
- 統計の自由作成（簡単かつ柔軟な統計）
- 事業効果検証機能(EBPM)

- AIアバターによるロールプレイ
- 支援計画策定ロールプレイ
- 過去事例共有・検索機能  
（過去の対応から学ぶ）
- ノウハウ共有（FAQ）  
（ベテランのノウハウを学ぶ）

## 価値

- 記録作業の時間短縮
- 記録の質の均一化・向上
- 認識共有のためのコミュニケーション  
時間や回数短縮

- 支援のフォローアップの漏れがなくなる
- 初期段階のアセスメントをチーム全体で分担し  
支援者の負担を軽減

- 調査時間短縮
- 経験の差を埋められる
- 先輩に聞く準備ができる
- 事務書類作成時間短縮
- 属人化を防止できる

- 人材育成にかかるコスト・時間の削減
- 支援員のスキル向上による相談支援の質の向上

※太字：プロトタイプに搭載した機能  
細字：今後プロトタイプへの搭載を検討する機能

## 相談記録プラットフォームのプロトタイプ的主要機能

○本プロトタイプの基礎的なコンセプトは、TYPESの募集要項に基づく「多様な関係者間の情報共有」や「相談記録等の作成」を行うことができるクラウド上のシステム【基本機能】

○これまでのデジタル検討会での協議で、業務フロー全体としての効果的なデジタル化を進めるためには「会議運営」「統計処理」「相談対応」を効率・円滑化できる機能の追加が必要との意見が得られた。【+α機能】

### 現場のニーズに基づいたプロトタイプ機能

※重層事業における多機関協働事業者のみならず、地域生活課題の解決に資する支援を行う相談支援機関であれば利用可能

#### ■記録作成・共有機能【基本機能】

- ①世帯情報などを記載した共通フォーマットによる記録作成
- ② ①の情報に基づく関係機関への情報共有
- ③エコマップ、ジェノグラム等の生成機能等

#### ■+α機能(検討会で出されたニーズ)

- ①制度・社会資源・類似事例等検索機能【相談対応の円滑化】
- ②日程調整機能【会議運営等の効率化】
- ③支援進捗管理・アラート機能【相談対応の円滑化】
- ④統計機能【統計処理の効率化】
- ⑤人材育成機能【人材育成と支援スキルの底上げ】

→ 令和7年度:「新しい地方経済・生活環境創生交付金(デジタル実装型)TYPES」の活用による開発を継続(複数市町村への実証導入)

※令和7年度は、基本機能の実装検証を行うほか、+α機能について①のうち制度・社会資源検索機能、②、③の実装検証、⑤の開発・実装検証を行う。  
なお、①のうち類似事例検索機能及び④については、重層事業に係る帳票の見直しを踏まえる必要があるため実装検証を見送る。

# AI等のデジタル技術を活用した福祉相談を担う相談支援員の人材育成

## プロジェクトの趣旨

※本プロジェクト「募集要項」より

- ・ 重層的支援体制整備事業において複数の関係機関による支援等が必要とされる場合の全体調整役として、既存の相談支援機関の相談支援員の支援等を行う多機関協働事業者の人材育成。
- ・ 相談内容が多様化・複雑化する中で、多機関協働事業者の人材育成を行うことが、ひいては、既存の相談支援機関の相談支援員の専門性を活かした効率的・効果的な支援体制の整備につながると考えられる。

### 【参考】

#### 1. 多機関協働事業の目的

##### ○ 市町村全体で包括的な相談支援体制を構築する

多機関協働事業は、重層的支援体制整備事業に関わる関係者の連携の円滑化を進めるなど、既存の相談支援機関をサポートし、市町村における包括的な支援体制を構築できるよう支援する。

##### ○ 重層的支援体制整備事業の中核を担う役割を果たす

重層的支援体制整備事業の支援の進捗状況等を把握し、必要があれば既存の相談支援機関の専門職に助言を行うなど、市町村全体の体制として伴走支援ができるように支援する。

##### ○ 支援関係機関の役割分担を図る

単独の支援機関では対応が難しい複雑化・複合化した事例の調整役を担い、支援関係機関の役割分担や支援の方向性を定める。  
※支援プランの作成は、多機関協働事業と一体的に実施。

#### 2. 多機関協働事業の基本的な役割

○ 多機関協働事業者は支援関係機関等からつながれた、複雑化・複合化した支援ニーズを有する事例等に対して支援する。

○ 支援関係機関の抱える課題の把握、役割分担、支援の方向性の整理といった事例全体の調整機能を果たすなど、主に支援者を支援する役割を担う。

<R7年度スケジュール>

区分	2025年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月
ア 検討会の開催			▲ 検討会 1回目	▲ 検討会 2回目	▲ 検討会 3回目		▲ 検討会 4回目			▲ 検討会 5回目	▲ 検討会 6回目
イ 多機関協働事業者の人材育成に重要な要素の整理		事前準備	▲ 検討会 1回目	課題ヒアリング							
ウ 人材育成に資するデータ活用の取組の検討			ユースケースの検討	▲ 検討会 2回目	データ項目の整理						
エ データを活用した人材育成に係る取組の検証	【データ蓄積】 【人材育成機能検証】	相談記録プラットフォーム検証環境準備	データ準備(匿名化)・投入 環境準備	動作確認 検証計画策定	▲ 検討会 3回目	★ 実装	検証① 評価・チューニング 検証計画見直し	▲ 検討会 4回目	検証② 評価 UIデザインの検討	検証報告書の作成	
オ 全国展開に資する取組		仕様書案の素案作成						ロードマップと次年度以降の検討課題の整理	仕様書案のブラッシュアップ	▲ 検討会 5回目	▲ 検討会 6回目